

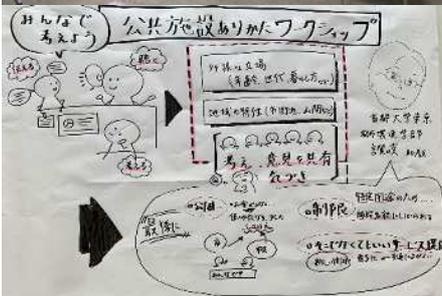
相模原市では、今後、人口減少や少子高齢化などが進む中、老朽化した公共施設への対応が大きな課題となっています。

そこで、「みんなで考える」をテーマに、限られた財源の中で、これからの相模原市らしい公共施設のあり方を考え、その実現に向けたアイデアや視点を提案してもらうためのワークショップを開催（全4回）することとしました。

ワークショップの様子を、市民の皆さんにも知ってもらうため、「みんなで考えよう、公共施設のあり方ワークショップ通信」を発行していきます。

## 8月24日（土）に、第1回ワークショップを開催しました！

第1回ワークショップでは、「思い出そう！公共施設」をテーマに、公共施設の現状や課題について、市から説明したのち、二つのワークを行いました。



市からの説明の様子

### ワーク1 公共施設を思い出そう

生活の中で「使っている施設」と「施設での活動」を付せんに書き出してみました。



意見を書いた付せんを模造紙に貼り、お互いがどのような施設で、どのような活動をしているかを知りました。

### ワーク2 公共施設って何だろう？

施設と活動を思い出してみた中で、施設と活動のつながりについて、気が付いたことや感じたことを話し合いました。

自分以外の人の活動や施設の使い方を知り、考えることで、今まで気が付かなかったことが見えたり、改めて大切なことを思い出したりしました。



## ワークショップの参加者ってどうやって選んだの？

今回のワークショップでは、より多くの市民の方に関心を持ってもらうため、市内在住で、16歳以上の方2,000名を無作為抽出し、参加の案内状を送付しました。また、一般公募による募集も行いました。その結果、59名の方から参加申込（途中辞退者を除く）をいただき、お住まいの区を中心に、各区3グループ、合計9グループにわけ、ワークを行っています。



## 第1回ワークの結果

ワークの成果を、グループごとに発表してもらいました。



### 主な意見

(ホームページにはすべての意見を掲載します)

インターネットを有効に使う  
 交通の便や圏域が大切  
 生活・手続きのために必要な施設  
 夏・雨の日はこどもセンター  
 外国人の居場所と交流も大切  
 建物でなくても活動できる  
 公民館は、地域住民の集いの場  
 利用ルールの緩和が必要  
 学校のスペースを有効利用



職員がその場で図や絵を使ってワークの様子をイメージ化

今回のワークショップは、首都大学東京の讃岐先生と学生の皆さんの協力をいただいています！



### 讃岐 亮 助教 プロフィール

首都大学東京 都市環境学部 助教  
 専門は、都市計画学。これまで、多くの自治体において、公共施設の再編に関する計画策定などを支援。

先生からの  
コメント

相模原市は広く、公共施設と交通アクセスを一体的に考えることの大切さを感じることが出来ました。そして、そうした課題の解消策の一つとして、たとえば施設に行かなくてもサービスを受けられるというITを意識した発想など、既成概念にとらわれないアイデアも出ました。  
 公共施設は、単純にお金を投じるだけではなく、市民の皆さんの協力や理解のもとで「ちょっと使いやすくする」ための工夫を施すことも大切です。これからどのようなアイデアが出てくるのか、次回以降のワークも楽しみです。



第2回は9月21日(土)  
 テーマは「どうしたらよい? 公共施設」です。

相模原市 公共施設 ワークショップ

検索

発行

相模原市 企画財政局 企画部 経営監理課  
 〒 252-5277 相模原市中央区中央2-11-15  
 042-769-9240